

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 4590100097 | | |
| 法人名 | 有限会社 大塚台夕月 | | |
| 事業所名 | グループホーム野の花 | | |
| 所在地 | 宮崎県宮崎市大塚台西3丁目23番地2 (電話)0985-47-2280 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 22 年 12 月 15 日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100097&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 宮崎県医師会サービス評価事務局 | | |
| 所在地 | 宮崎県宮崎市和知川原1丁目101 | | |
| 訪問調査日 | 平成 23 年 2 月 17 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>バス路線沿いの住宅街の中に位置し、近辺には保育園や児童館や小学校、コミュニティーセンター等があり、たくさん社会資源に恵まれている。地域の自治体にも加入し、利用者や職員は地域の行事や活動等に参加し、地域の一員として自然に溶け込んで生活している。日課として午前中はテレビ体操を行い、天気の良い日は近所の公園等に散歩して健康の維持と生活のめりはりと気分転換を図っている。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>住宅街の中にある事業所は近隣に保育園や公園、コミュニティーセンターなどの社会資源に恵まれ、利用者は職員と一緒に、日課として公園までの散歩を欠かさず行なっている。保育園児との触れ合いや地区の行事に参加したり、近隣の高齢者が訪れ、利用者と一緒にカラオケ教室を楽しむなど地域の人々と相互交流が得られている。また、防災訓練に地区住民の参加が得られ、非常災害時においても地区住民への連絡網が作成されるなどの協力体制が整っている。重度化や終末期の対応についても、かかりつけ医や訪問看護師との連携を取り積極的に取り組んでいる。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 管理者と職員はいつでも「理念」を目にすることができるようになっており意識をしながら介護に携われるようにしている | 『家庭的な環境の中でその人らしく地域の中でゆっくりとした生活を送れるように』と理念に掲げて職員全員で共有し実践につなげている。理念の見直しについても適宜に行なっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治体に参加しており一斉清掃に参加したり、地域の高齢者が月に1回はカラオケ教室を事業所で行い一緒に歌って茶話会を行っている | 地域の自治体に参加し一斉清掃に出かけたり、ふれあい会食に招待され職員と一緒に参加している。ホームは地区の高齢者と利用者が一緒に行なうカラオケ教室の場にもなっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の高齢者のカラオケ教室を月に1回ホールを解放して、利用者と共に歌い相互が喜んで楽しみにしている。入居者の好きな歌を選曲してデュエットしてくれたり、敬老の日には子供達が慰問して高齢者が歌える唱歌と一緒に歌ってくれる | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 外部評価の結果が出たあとの運営推進会議では評価をいただいたことを報告して今後のサービスの向上に役立てるように努力している | 地域の自治会長や、包括支援センターの職員、警察官、民生委員等の参加が得られて2か月に1回開催している。事業所からの報告を行ないながら参加者の意見や要望などをサービスの質の向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市役所や包括支援センターとは質問や確認等で気軽に電話をかけたがり出向いて話をしている | 事業所は市の担当者と電話や直接出かけて事業所の悩みや相談をしながら協力関係を築くように取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については全職員が理解しており、玄関も解放しており身体拘束をしないケアに努めている | 管理者、職員は身体拘束の弊害を十分に理解しており、利用者が出かける気配の時は職員が付き添って出かけているため玄関の施錠も含めて拘束しないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待についても全職員が理解し虐待に当てはまるような様子が伺えるときは、注意を十分に払い未然に防いだり、再発しないように努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する制度については以前に研修に参加してことはあるが実際に必要な方が入居したり必要な場面に合わないために深く理解し活用していない | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 今年1年は入居者の出入りがなかったが契約時は、利用者の家族が不安や疑問に思っていることについて分かりやすく十分な説明を行っている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族が意見等を気軽にしやすいように玄関の外側に意見苦情箱を設けた。意見等があった場合は即座に検討し運営に反映するように対応している | 家族からの意見や意向、苦情などは職員に気軽に話してもらえるように家族に対して日頃から関係づくりやコミュニケーションを大切にしている。出された意見や意向について、職員全員で検討し記録に残して運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員全体会議や日々の話し合いの中で適切と思われる提案等にはすぐに反映できるようにしている | 日常のミーティングや職員全体会議において、意見や提案などは改善課題として運営に反映させている、 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々がやりがいを持てるように働きやすい環境や条件を整えている。実績に伴い賞与や手当を考慮している | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 経験豊かな職員に指導を実際のケアの中で行っている様子を見て職員間の調和がとれていると感じている。またより上の資格を取るために研修や勉強会に出席し、ケアの向上に努めている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 知り合いの他のグループホームを職員が何人か積極的に同行してサービスの質の向上に役立てようと取り組んでいた | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人が安心して生活できるようにサービスの段階で信頼関係が保てるように、要望や話を聞くように努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 会話がしやすい雰囲気をつくり何でも聞いたり、言えるように親しみのある関係づくりに努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族の希望を聞き、必要な支援は何かを見極められるように努力し、適切なサービスがあれば勧めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人に相応しい、可能な役割を持たせ、生活の中に必要な存在であるという自覚を持ち、共同生活を送る仲間という意識を築いている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人と家族の絆がよりよく築かれるように、家族が面会に来た時は双方が楽しく話しやすい環境を提供し、また来てもらえるように口添えするように支援している | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | たとえば以前住んでいた団地の人達が通りがかったら招き入れ本人との話が弾むような環境づくりやお茶の差し入れをして支援している | 利用者がこれまでに培った大切な人や場所など関係が途切れないように家族とも相談しながら、ケアプランに組み入れ支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人一人が孤立することなくなるべくみんなでホールで過ごす環境作りをしている 本人達で会話したり衣服や掛物を掛け合っていたわり合う様子を見ると喜ばしく感じられる | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 地域の行事等や町中で再開した時はあいさつや近況を伺い気軽に話ができている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の好きなことややりたいことを把握し、無理なくできるように支援している | 利用者がやりたいことは何かを日々の生活の中から、また、家族の意見を基に見つけ出して書字や編み物、得意な家事など、いきいきと出来ることを支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | アセスメントの段階で本人の歩いて来られた生き方、暮らし方を把握し今後の暮らしに役立てるように努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 夜勤者から夜間帯の状況を申し送り、朝のバイタルサインチェック等で心身の状態を把握し、1日の様子を伺ったり、申し送りノートにまず出勤したら目を通して仕事に入るようにしている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成者は全職員から本人の日常生活の様子や変化、気づいたことをよく聞き出しよりよく暮らすための課題を見極め、適切なケアにつながるよう取り組んでいる | 利用者本位の介護計画は家族の意向も取り入れ職員全員で話し合っ3か月毎に作成され、毎月1回のモニタリングを行なっている。身体状態に変化が起こった場合は、その都度の見直しプランが作成されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 夜間と日勤の記録は色分けして見る人が分かりやすいようにして情報の共有を図りながらよりよい介護計画につながるよう工夫している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 一人一人が毎日同じではなく体調や気分で変化があり、その日その時でその人に合わせた柔軟な対応で一人一人のニーズにできるだけ添えるように取り組んでいる | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 少しずつ地域に溶け込んでホームに訪問してもらったり、招待を受けたり、外出すると声をかけてもらったりしていき、心豊かに楽しみながら暮らしている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホームが提携するかかりつけ医以外でも本人が昔から信頼している病院があればその病院とも提携をして本人が安心して医療を受けられるように支援している | 利用者本位の従来からのかかりつけ医との関係を大切に、受診時はホームの看護師が付き添い暮らしぶりについて報告するなど適切な医療を受けられるように支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職員は健康面の変化や気付いたことは全て早急に看護師に連絡をとり、適切な受診が受けられ重度化せず未然に防ぐ対応をしている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院には的確な日常の情報を提供し安心してまた早期に退院できるように支援している。病院にはたびたび面会をし病院関係者から経過等の話を聞いて信頼関係を築くようにしている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族の方から最後まで見てくれるからここにお願ひしたと言われているので最初の段階やサービス担当者会議等でも方針を共有している | 入居して間もない時期に本人・家族と事業所職員で話し合いを持ち重度化や終末期に向けた方針を共有している。かかりつけ医や訪問看護と連携して対応できる体制を整えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 昨年度は管理者が南消防署で行なわれた人工呼吸や応急措置の訓練を受け、職員会議等で全員に再現し、実践に役立てるよう努力している | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練を行い、消防署の指導のもと夜間帯の避難方法を地域の住民も参加して行ったまた散歩の時は避難場所を常に認識できるように話題にして意識させている | 年2回避難訓練(夜間想定を含む)を地域住民の参加協力を得ながら実施している。また、地域自治会とも非常災害時の通報・協力体制を整えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 認知症になっても誇りやプライドを最後まで維持していることを職員が自覚していて、それを汚すことのないような言葉かけや対応をしている | 利用者個々を尊重した会話や対応をしている。記録物についても個人情報の保護に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望を自由に言える雰囲気を作り職員は本人の話に耳を傾けて聞く姿勢を築いている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 高齢者は変化を嫌われるので特別な日を除いては毎日変化なくまた本人の希望に沿った生活ができるように支援している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 一人一人がそれぞれ個性を持っておられるためその本人らしさの援助ができるように支援している。化粧が残り少なくなると買って来て補充している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は楽しみの一つであるため季節の物や高齢者が好む献立を提供している。つわむきやえんどう豆むきなどの下ごしらえをみんなで行ったり、お盆拭きやテーブル拭きなど役割が決まっている | 利用者一人ひとりの好みや力を活かしながら職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。利用者と職員は会話を楽しみながらゆったりと食事をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 野菜は毎食、肉も魚も毎日摂取して栄養のバランスを考慮し本人の食べきる量も把握して配膳している。口に粒が残ると出してしまう利用者にはミキサーでつぶして提供している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 習慣になっている利用者は自分で毎食後口腔ケアを行っているが夕食後は職員が付き添いきれいにケアを行い毎回コップに義歯を着ける支援をし、ばい菌による肺炎等の病気にかからないように気をつけている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 極力排泄が自立できるようにしている。たとえば便汚染があっても本人が傷つかないようにそっと後始末して自尊心を保てるようにしている | 昼間はトイレで排泄が出来るように支援している。夜間帯はポータブルトイレを使うなど、一人ひとりの利用者の状態に合わせて対応してしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 高齢者は便秘がちになりやすいため、野菜を多く取り入れた献立を工夫して、日課としてテレビ体操を行ったり近くの公園に散歩して運動量を増やす支援に取り組んでいる | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 高齢者は変化を好まないため極力入浴日と時間帯は変えない努力をしている。入浴を拒否されるときは本人の意思に任せているが、長期間の拒否は説得し、理解してもらって誘導している | 入浴日の設定はしているが、夏場や、利用者の希望時は毎日入浴出来るように対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入眠の時間は一人一人まちまちだが本人の意思に任せている。寒い時や暑い時はエアコンで気温を調節しておき気持ちよくまた安心して眠れるように対応している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の情報は職員がすぐに確認できるように表示しており、新しい薬や減らされた薬等の説明は看護師が医師から報告されたことを的確に伝えるように支援している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | たとえば歌が好きな利用者には録画したビデオを見せたり、韓国ドラマが好きな利用者にはレンタルビデオや買ってきたビデオを放映している。書写や塗り絵、折り紙など本人の好きな作業を本人が選んで行えるように支援している | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は気分転換に外出を本人の希望で出かけている。地域の集会所の食事会等にも招待を受け出かけている | 天気の良い日は近隣の公園まで、ほとんど毎日の日課として散歩している。集会所の食事会や保育園の発表会に招待されたり、スーパーの買い物など日常的に外出ができるように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を所持する能力のある利用者は自分で買い物したり、職員に買って来てと頼むことができる | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 能力のある利用者は家族等に電話を自分でかけたり、聴力が低下している利用者は職員に頼んで掛けてもらうことができる | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | みんなが集まる食堂のテーブルの上には季節の花を飾り、季節感を感じ取れるようにし、ホールや廊下にも花や景色の絵を飾り、会話が弾み、癒される空間をつくっている 家庭にいるような雰囲気味わえるように不快な刺激的なものは極力除く工夫をしている | リビングは採光も良くテレビやソファや、コタツがあり利用者が家庭にいるときと同じ雰囲気をつくろげるように配慮されている。季節の花や、ドライブのスナップ写真など要所に飾られており、利用者は書字や編み物など思い思いに過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 冬はこたつを囲んでみんなが集まるような環境を作り、隣同志で会話をしている様子を見て微笑ましく思うことがある。気の合った利用者同士が入浴中や夕食後のだんらんで楽しそうに会話されている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | たとえば姉妹で入居している部屋は1室を茶の間もう一つの部屋を寝室にして我が家のように使われている。書き物が好きな利用者は部屋に机を持って来て熱心に書き物をされ、本人達が居心地良く過ごせる工夫をされている | 夫婦や姉妹での利用者は、2室のうち1室は寝室、1室は茶の間と工夫された利用しており、使い慣れた家具や調度品が持ち込まれ居心地良く過ごせるように配慮されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 今年1年利用者の入れ替えがなく馴染みの利用者、馴染みの家で過ごされ我が家のように迷うことなく快適に安全に過ごされている | | |